

## 表A-2 FA作業の危険度評価基準

FA気中濃度(ppm)	症 状	危険度の評価基準	
		症状を感じる時間が長い	症状を感じる時間が短い
5.0以上	喉に刺激を感じる・咳が出る	5 <sub>(長)</sub>	5 <sub>(短)</sub>
0.81～1.60	ほとんどの人が目に刺激、鼻、喉の乾燥を感じる	5 <sub>(長)</sub>	5 <sub>(短)</sub>
0.40～0.80	30%のヒトが軽い不快感、目に刺激、鼻、喉の乾燥を感じる	5 <sub>(長)</sub>	4 <sub>(短)</sub>
0.05～0.13	50%のヒトが臭気を感じる	3 <sub>(長)</sub>	3 <sub>(短)</sub>
0.03～0.05	目に刺激を感じる	2 <sub>(長)</sub>	2 <sub>(短)</sub>
0.05未満	敏感なヒトは目に刺激を感じる	1 <sub>(長)</sub>	1 <sub>(短)</sub>

FA気中濃度(ppm)と症状 出典：産業医学 日本化学会誌より

## 表A-3 危険度評価基準の意義

危険度	評価	対応
5～4	高危険群	直ちにリスク低減措置、対策を講ずる必要がある。作業環境測定を実施し、危険性を把握する。すべての作業員、事業主、関係者に周知させて具体的な対策をとる。
3	中危険群	速やかにリスク低減措置を講ずる必要がある。作業環境測定を実施し、気中FA濃度0.1ppm以下を維持する。
1～2	低危険群	必要に応じて低減措置を講ずる必要がある。定期的に作業環境測定を実施し気中FA濃度0.1ppm以下を維持する。